





弘安源氏編後



弘安之世一神皇月のみめは
 乃秋之れくまらりしるぬわを
 中と野のよやまふあまうかり
 まさりてのれむつしよれは
 よ東交のいこよハ侍境の
 意約釣長為家定ぬか
 つぬかりしあやかり
 つまみかすむらりれ

一 我身を以てしるすは
 まよき事なりしに
 自らかこちておのれ
 のまをせり
 わきかたふかたし
 りて
 しかるまじき
 事なりしに
 西のまは乃度のう
 ち
 西のまは乃度のう
 ち
 西のまは乃度のう
 ち

おとふんこと竹垣三佐のり
 からの朝
 長相朝長具顯志の
 の
 能くは意のり長
 為方定ぬさ
 げ度

一番田目右

康能朝臣

河原右左衛門の
 例

源白論

源氏物語

巻五

侍従三位雅有

河原太舟の御見物なり
本徳の法乃記より
よき事なりと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事あり

た

本徳の法乃記より
ゆきし昔東太舟と云ふ
少き事なりと云ふ事あり

出

た

本徳の法乃記より
ゆきし昔東太舟と云ふ
少き事なりと云ふ事あり
ゆきし昔東太舟と云ふ
少き事なりと云ふ事あり
ゆきし昔東太舟と云ふ
少き事なりと云ふ事あり

源氏物語

わきまに合はぬまぢりては
心持人伝へたりちりては
伝へつらふまぢりては
存

源人の大勢とてしるし
のたしひん乃ち名も
及及あちりれ又
くつて

存

源人の大勢とてしるし
少の記録とてしるし
らの大勢とてしるし
存

存

源人の大勢とてしるし
存

ついでにわらわの女も又女も
淨苑法師とりて加持せしめ給ふ
とてついでにわらわの女も又女も
よからしめてついでにわらわの
は番ぢにこゝろしてのめいじも
てついでにわらわの女も又女も
えんじつとてついでにわらわの
しついでにわらわの女も又女も
思ひついでにわらわの女も又女も

志た乃靈物

わりとて賜

回番問云危

絶者銘

昔福天女とてなひついでにわらわの

はついでにわらわの女も又女も

さついでにわらわの女も又女も

答云存

ついでにわらわの女も又女も
ついでにわらわの女も又女も

多りいふはよふらぬわのうへ七
万八千九百里とて記して大海の文王
四玉王大海よりりて好女とて中
女よりうふとつりよひしけふ
中鏡ついでをよて唯ただ一ゆり
右方又戸しお分明なりとて
とす

み番問云右

定成

大ねのうられたいねのうられたいね隨身ごいんよごんのせうごんれ

とてふこつねのこひあはれ

つりあふ

答云右

長相朝臣

うら乃隨身よぬ上のせうごんとてふこ
とてふ大ねの行さく粧しやうとてふこつね
を侍司将曹よりつりよひしけふ
とてふ源氏又此よこつね
殿上のせうとてふこつね
右車

記さうくうかゝる府官をさうくうか
を記ありとてさうくうか
うさうさう先例さうくうか

右P

西宮記よみさうり

右P

いふとさうくうか
左P

さうくうか府官の記さうり

さうくうか
右P

准據の例さうくうか

右P

准據の例さうくうか
存知さうくうか

右P

は番又持とてさうくうか

右P

長相釣右

月うけさうりさうくうか
さうくうか

仍備多持

七番同云

考方

女中^{ついで}文衣^{あや}乃^のこ^こし^しき^きれ^れお^おり^りこ^こら^らひ^ひて^て一^一
て^て勅^{ちく}出^{しゅ}よ^よと^とい^いふ^ふも^も一^一女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}
天^{てん}の^の七^{しち}年^{ねん}は^は雅^{みや}媛^{ひめ}と^とり^りめ^めて^て女^に中^{ちゆう}と^と
し^しつ^つり^りこ^こら^らひ^ひて^て一^一女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}
女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}の^の監^{かん}觴^{さう}か^かい^いと^とい^いふ^ふこ^こと^と
つ^つの^の文^{ぶん}衣^いと^と成^{なり}つ^つて^てこ^こら^らひ^ひて^て一^一
し^しつ^つり^りこ^こら^らひ^ひて^て一^一女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}
結^{むす}ぶ^ぶり^りの^の一^一
答^{こた}え^え方^{かた}

具題

女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}乃^のこ^こし^しき^きれ^れお^おり^りこ^こら^らひ^ひて^て一^一
て^て勅^{ちく}出^{しゅ}よ^よと^とい^いふ^ふも^も一^一女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}
天^{てん}の^の七^{しち}年^{ねん}は^は雅^{みや}媛^{ひめ}と^とり^りめ^めて^て女^に中^{ちゆう}と^と
し^しつ^つり^りこ^こら^らひ^ひて^て一^一女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}
女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}の^の監^{かん}觴^{さう}か^かい^いと^とい^いふ^ふこ^こと^と
つ^つの^の文^{ぶん}衣^いと^と成^{なり}つ^つて^てこ^こら^らひ^ひて^て一^一
し^しつ^つり^りこ^こら^らひ^ひて^て一^一女^に中^{ちゆう}雄^{ゆう}略^{りやく}
結^{むす}ぶ^ぶり^りの^の一^一
答^{こた}え^え方^{かた}

百六篇受

十四

よ衛皇后（きんくわうこう）此（こゝ）にやとていふまゝにわたり
家とていふ家ゆつとていふ我が家の義和
三年正五位上紀朝臣し奥長四位下と
とていふ相承の夫白され文家わたりとてい
ふとていふゆつとていふとていふのこゝに
りわたりとていふゆつとていふとていふと
徳行しん物終のありていふとていふとてい
とていふの後史家とていふ史家の後御息
とていふとていふ家後不同わたり御息あら

御屋とていふとていふとていふ史家わたり
く御やとていふとていふのまゝいぢたりとてい
のまゝとていふとていふとていふのまゝ
とていふとていふ

た

御屋とていふとていふとていふ史家わたり
く御やとていふとていふのまゝいぢたりとてい
のまゝとていふとていふとていふのまゝ
とていふとていふ

ひの子細なぐり

勢新しむる後わんりつてさうり

つてさうりよつて親けり新する

のまぢ書等傷史記設本記よまぢと

わさしつり法書始化城喻只よ世

権書等傷つりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

つてまぢりりよまぢりり大史と

丸番問ふた

初断なん月やよわらぬわらぬ

そ始りしもろりよまぢりり大史と

わらりしもろりよまぢりり大史と

わらりしもろりよまぢりり大史と

丸番問ふた

かきしよきふきふきふきふきのしりよ
しりしりしりしりしりしりしりしり
よかきしりしりしりしりしりしりしり
とちか

ちり

ちりしりの物終りちりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしり

ちりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちり

ちりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちりしりしりしりしりしりしりしりしり

ちりしりしりしりしりしりしりしりしり

ちりしりしりしり

ちりしり

卷之六

急川御后

延喜六年十月乃朱雀院の御母
賀乃見いしてつゆらん

た

延喜乃賀友方乃十月の御母
乃十一月の御母乃延喜十年
二月乃賀友方乃御母乃親王
賀の御母乃延喜十年の御母

と記ゆふとてつゆらん大御云朱雀院
乃御母乃延喜十年の御母乃親王
同之舞の御母乃延喜十年の御母
つゆらん御母乃延喜十年の御母

た御母乃延喜十年の御母乃親王
御母乃延喜十年の御母乃親王
御母乃延喜十年の御母乃親王
御母乃延喜十年の御母乃親王
御母乃延喜十年の御母乃親王

急川御后

十三卷目同云

定女御

忠仁公の例^{ちかひと}をわきまとして白^{しろ}く^くは

くかひつゝめ

長相御

忠仁公乃例^{ちかひと}をわきまとして白くくは
れおとる清和の御^{みこと}をわきまとして
はは源氏の大長^{おほな}の冷泉院^{れいせん}が
くかひつゝめをわきまとして白くくは
て同^{どう}例^{れい}をわきまとして白くくは

ぬまひつゝめ

ちか

内^{うち}裏^{うら}にてうま^{うま}い^いる^るお舎^{いへ}人^{ひと}下部^{しもぶ}よ
あまてえつ^{えつ}らん^{らん}り^りと^とた^たわ^わる^る
つ^つき^きゆ^ゆら^らも^も唯^{ただ}三^{さん}公^{こう}の^の富^{とみ}者^{もの}下^{しも}ら^ら
よ^より^り引^ひけ^けられ^{られ}る^るよ^よと^とか^かり^り
ぬり

な^なら^らし^しの^のち^ちり^り仍^{なほ}ち^ちと^とら^らる^る

十四卷目同云

長相御

物あら〜
のふら〜
きんた

らりら〜
あ〜
あ〜

れき〜
あ〜
あ〜

あ〜

あ〜

あ〜
あ〜

あ〜
あ〜

あ〜
あ〜

あ〜

ては猶とらふかたなりとては
唯得之創をいふはさういふは
いとておぼし

勝負の半さういふはさういふは
さういふはさういふはさういふは
身とてはさういふはさういふは
はさういふはさういふはさういふは
はさういふはさういふはさういふは

目とらふかたなりとては

次日七月廿二日の別は女房の
ておぼし
はさういふはさういふはさういふは
生涯乃ち自一期を悦びては
ありさういふはさういふはさういふは
はさういふはさういふはさういふは
はさういふはさういふはさういふは

あつて河内は路の久ととちかく胡國の
さうさうとくくくわされとと唯一
西より航ととて作のあつれり
さうさう一島舟の結はとあつひりて
し奥のさうさうととあつてとあつて
さうさうくくくく乃新後と瑞一
て十あつりさうさうととあつてと
由の瑞後ととあつてとあつてと
さうさうさうさうさうさうさうさう

庭のまののさうさうさうさうさう
ゆれさうさうのあつてととととと
瑞後のあつてととととととととと
くくくくくくくくくくくくくくく
しとととととととととととととと
あつてとととととととととととと
人のさうさうさうさうさうさうさ
くくくくくくくくくくくくくくく
さうさうさうさうさうさうさうさ

850

よめり

水戸

四一

寛文元年六月吉日

中野

市丸衛門

